

## 福江高校を核とした 渥美地域の魅力化の考えは

検討されている観光ビジネスコースの新設や、連携型中高一貫教育を通じ、地域の魅力向上・活性化につながることを期待



小川 貴夫  
自民クラブ

### 学校を核とした地域魅力化プロジェクトの取組について

- 問** 平成31年度から伊良湖岬中学校が福江中学校に統合される。今後の統合準備委員会のスケジュールは。
- 答** 統合の前年まで、年3回程度委員会を開催する予定。教育課程・通学体制などは部会を設置して細かな検討を随時行っている。
- 問** 統合により部活動の種目は増えるか。
- 答** 出来れば増やしたいという学校の思いはあるが、教員は2名増えるだけの予定であり、慎重に検討する。
- 問** 福江中学校と福江高校の連携型中高一貫教育の進捗状況と内容は。
- 答** 昨年7月に推進委員会を組織し、生徒の教育活動での交流・教員相互の交流・地域と連携した交流活動について協議している。
- 問** 両校で現在行われている部活動交流は。
- 答** バレーボール部・卓球部・バスケットボール部が合同練習を行った。本格的な交流は、平成29年度から始まる予定。

- 問** 両校で連携して「ふるさとキャリア教育」を積極的に行うことはできるのか。
- 答** 地域学習を進める中で、連携した取り組みは可能と考えている。
- 問** 連携型中高一貫教育への意気込みは。
- 答** 6年間の交流の中で、豊かな人間性を育成し、市の発展に貢献できる生徒の育成を目指すことを目的としたこの取り組みは、市内の学校としては、中高一貫が連携して行う初めての取り組みであり、大きな成果が出ることを願っている。
- 問** 福江高校を核とした渥美地域の魅力化の考えは。
- 答** 地域の核としては、まず小中学校が挙げられるが、観光ビジネスコース新設が検討されていること、また福江中学校との連携型中高一貫教育を通じ、地域の魅力向上・活性化につながることを期待している。

- 問** 新斎場を現田原斎場とした背景は。
- 答** 土地所有者が1団体であること、交通の利便性、駐車場利用等を勘案し、現田原斎場を建設予定地とした。
- 問** 新斎場を1か所とした考え方は。
- 答** 環境保全の見地から分散化抑制、小規模・老朽施設の整理の面で、人口30万人までは集約が望ましいという考え方。
- 問** 火葬炉前の前室の必要性は。
- 答** 火葬後にお骨を早く冷ませること、炉内が会葬者の目に触れない構造となることだが、現斎場には設置されていない。
- 問** 老朽化が進む現斎場のダイオキシン削減対策は。
- 答** 火葬炉の点検、設備の維持管理等だが、根本的な対策は建て替え以外に無い。

### 斎場運営について

斎場が遠くなる地域のための  
バスの用意は  
民間葬祭業者とバスの取り扱いについて  
意見交換する



杉浦 文平  
無所属クラブ